

感染症拡大下の大学間単位互換授業に対する受講生の評価

Student Evaluations for Inter-University Credit Transfer Classes under the Spread of Infectious Diseases

阿部 一晴*¹, 安福 裕一郎*², 齊藤 明*², 吉田 真士*²
Issei ABE*¹, Yuichiro YASUFUKU *², Akira SAITOU*², Makoto YOSHIDA *²

*1 京都光華女子大学 キャリア形成学部

*2 公益財団法人大学コンソーシアム京都 教育事業部

Email: i_abe@koka.ac.jp

あらまし: 大学コンソーシアム京都における大学間連携主要事業に、加盟大学等による単位互換がある。単位互換専用に企画された科目の他、各大学が相互に提供する科目等から構成されている。2020 年度以降は感染症拡大に伴う教室での対面授業への制約等からオンラインを中心とした例年とは異なる運用を余儀なくされた。受講生アンケートを通じて、感染症拡大下の単位互換授業への評価と単位互換事業の可能性、課題等について報告する。

キーワード: 単位互換授業, 大学間連携, コンソーシアム, 感染症拡大

1. はじめに

大学コンソーシアム京都は、1998 年 3 月に文部大臣(当時)より財団法人(2010 年より公益財団法人に移行)としての設立認可を受けた。法人格を持つ大学コンソーシアムとして、全国最大規模の事業を展開している。この中でも加盟大学相互の単位互換事業は、財団の前身である「京都・大学センター」設立当初に開始された中核事業である。提供科目数は 500 科目規模であったが、ここ数年大幅に減少している。ピーク時は年間のべ 10,000 名を超える受講者があったが、ここ数年受講者数も縮小傾向にある。

2. 単位互換事業の概要

大学コンソーシアム京都が実施している単位互換事業は、他大学が開講する科目を履修し、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度である。

表 1: 単位互換事業の推移(2013~2021 年度)

年度	協定大学	提供大学	提供科目	出願者	履修者
2021	45	38	345	704	627
2020	45	38	401	1,111	687
2019	45	40	415	1,405	1,271
2018	45	40	427	1,984	1,842
2017	46	40	435	2,549	2,400
2016	48	41	457	3,369	3,120
2015	48	43	589	3,615	3,412
2014	48	44	516	5,287	4,702
2013	50	46	540	5,754	4,952

この単位互換事業には、現在 45 大学・短期大学が単位互換包括協定を締結し、これまで毎年 400~500 科目前後を提供していたが、最近は減少傾向にある。受講者数は、ピークであった 2001 年度にのべ 14,000 名を超える出願、10,000 名を超える受講があった。

ここ数年の推移を見てみると、感染症拡大前の 2019 年度は 415 科目の提供、1,405 名の出願、1,271 名の受講であったが、2020 年度、2021 年度は感染症

拡大という事態に直面し、出願者数、履修者数は例年より大幅に減少した。(表 1)

これとは別に「京(みやこ)カレッジ」という名称で提供している社会人向けの生涯学習に毎年のべ 1,500 名前後の出願があり、このうち一部科目は単位互換事業に相乗りという形での受講となっている。こちらも 2020 年度、2021 年度は出願者数、受講者数ともに例年より大幅に減少した。(表 2)

表 2: 京カレッジ(生涯学習)事業の推移(2012~2022 年度)

年度	科目提供大学等	提供科目数	出願科目数	出願者数						一人あたり出願科目数※1	受講許可者数
				<実数>			<延べ数>				
				前期	後期	合計	前期	後期	合計		
2022	23大学 2機関	179科目	83科目 前期50科目	801名	-	801名	1,249名	-	1,249名	1.6科目	752名
2021	26大学 1機関	198科目	91科目 前期88科目	703名	11名	714名	1,157名	13名	1,170名	1.6科目	672名
2020	29大学 2機関	224科目	97科目 前期65科目	627名	7名	634名	1,070名	25名	1,095名	1.7科目	723名
2019	31大学 2機関	257科目	122科目 前期122科目	812名	7名	819名	1,558名	12名	1,570名	1.9科目	1,329名
2018	34大学 2機関	274科目	120科目 前期154科目	773名	14名	787名	1,407名	15名	1,422名	1.8科目	1,297名
2017	30大学 2機関	276科目	127科目 前期149科目	1,048名	7名	1,055名	1,655名	24名	1,679名	1.6科目	1,315名
2016	31大学 2機関	314科目	154科目 前期160科目	812名	21名	833名	1,576名	34名	1,610名	1.9科目	1,292名
2015	34大学 2機関	419科目	178科目 前期178科目	809名	10名	819名	1,921名	25名	1,946名	2.4科目	1,743名
2014	34大学 1機関	373科目	172科目 前期159科目	698名	18名	716名	1,701名	47名	1,748名	2.4科目	1,525名
2013	36大学 1機関	428科目	194科目	506名	16名	522名	1,074名	40名	1,114名	2.1科目	-
2012	36大学 1機関	469科目	228科目	596名	18名	614名	1,265名	62名	1,327名	2.1科目	-

3. 感染症拡大の単位互換事業への影響

2020 年度の単位互換事業において、加盟校から 401 科目の提供があった(2019 年度は 415 科目)。出願者数は延べ 1,111 名であった(2019 年度 1,405 名で 294 名減(▲21.0%))。履修者数(実際に単位互換授業を受講した学生数)は延べ 687 名(2019 年度 1,271 名で 584 名減(▲46.0%))、出願者数に対する履修者数の割合(履修率)は 61.8%であった(2019 年度は 90.5%)。これらの結果から、2020 年度の大学コンソーシアム京都における単位互換事業は、規模という意味で例年とは大きく変化した(従来の延長線上に

はない) ことが示されている。2021年度は、345科目(2019年度より70科目減)提供、704名の出願(同701名減(▲49.9%))、627名の履修(同644名減(▲50.7%))と更に大幅な減少であったが、履修率は89.0%とほぼ従来どおりに戻っている。

4. 単位互換授業受講生アンケートの結果

大学コンソーシアム京都における単位互換事業では、受講生の事業への満足度評価や今後の改善等に繋げる目的で受講生対象に Web 上のシステムでアンケートを実施している。2021年度の受講生からも143名からの回答(履修者数に対する回答率は22.8%)があった。その概要は以下のとおりである。

過去の単位互換制度を利用した回数は、なし(今年度が初めて):123名, 2回:12名, 3回以上:4名であり、大半が初めての受講であった。(図1)

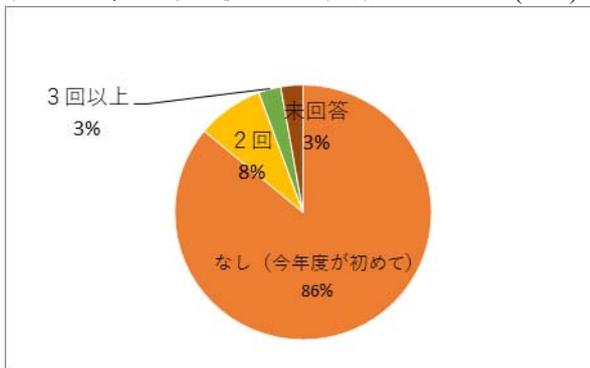


図1: 過去の単位互換制度を利用した回数

授業の形式については、すべてオンライン授業:60名, オンラインおよび対面による授業:50名, すべて対面による授業:29名であり、オンラインで様々な活動が行われたことがわかる。(図2)(図3)

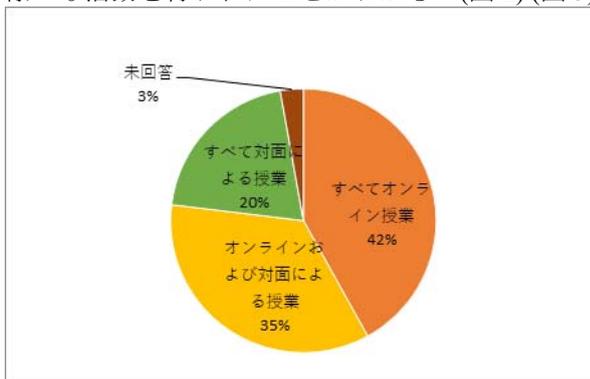


図2: 授業の形式について

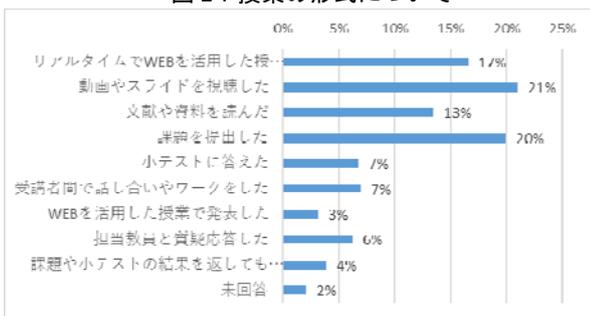


図3: オンライン授業で行った活動

受講した授業に対する評価では、進行する速さは「ちょうど良い」が85%、授業内容量も「ちょうど良い」が71%、授業内容については「満足」「やや満足」を合わせて86%という結果であり、感染症拡大という授業環境等の従来からの大きな変化、特にオンライン中心の開講形態になったにも関わらず、全体的な単位互換授業への評価、満足度は高かったことが読み取れる。(図4)

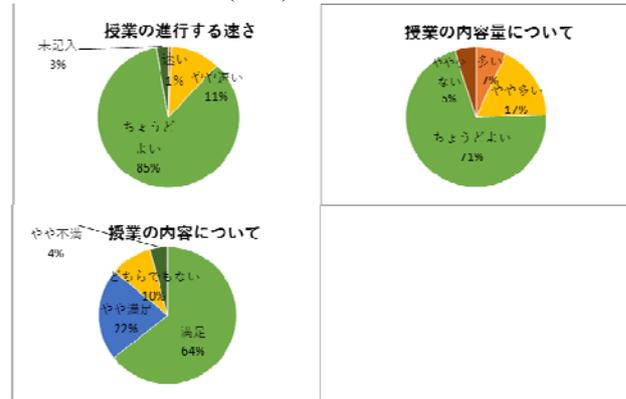


図4: 受講した単位互換授業に対する評価

オンラインでの授業に関しては、受講の柔軟性、繰り返し受講できる等の肯定的な意見もある反面、単位互換授業ならではのメリットが得られにくかったといった否定的な自由意見もあった。(表3)

表3: 受講アンケート自由記述(一部抜粋)

<p>何度でも繰り返し視聴でき、また体調が良くないときにはその日ではなく別の日に受講が出来る点。そして、リアルタイムではないので、質問の整理や授業理解に時間を十分に要することが出来た。</p> <p>本来対面授業であれば所属大学の授業との兼ね合いで、他大学の授業受講は出来なかった。しかし、オンライン受講になったおかげで受けた他大学の授業が受講できたため大変良かった。コロナ収束後もオンライン受講を可能にしてくれる興味のある他大学の授業を受けやすいと思う。やはり、対面になると移動時間がかかり授業を取るのにハードルがあるので。</p> <p>オンラインに慣れてる人、慣れてない人の差が激しかった。</p> <p>他校の雰囲気を知ることの出来る良い機会だと思いつつも、通うことも無く受講期間が終わってしまっ。対面型で他校の先生と知り合えるかもしれないという期待を裏切られた。</p>

5. まとめと今後の課題

突然の感染症拡大に伴い、2020年度は大学コンソーシアム京都の単位互換授業も中止やオンラインへの移行を余儀なくされた。2021年度は、多くの大学でオンライン授業のための設備や支援体制の整備等も進み、オンライン授業がより多く開講された。受講生もオンラインでの受講に慣れ、そのメリットを享受し、学習という意味での単位互換授業の役割は従来どおり、もしくは従来以上に果たしていると考えられる。一方、他大学のキャンパス体験や学生同士の交流といった授業に付随するメリットをオンラインで得ることは難しいとも言える。オンラインがノーマルとなった単位互換の意義や今後のあり方等についてもしっかりと考えていく必要がある。

参考文献

- (1) 阿部一晴, 安福裕一郎, 安部明雄, 吉田真士: “感染症拡大下における大学間単位互換事業のふり返りと今後の課題”, 教育システム情報学会, 第46回全国大会講演論文集, pp.149-150 (2021)
- (2) 公益財団法人大学コンソーシアム京都, <http://www.consortium.or.jp/> (2022)